

健診検査センターニュース

No.457 号

新規実施項目のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。
さてこの度、下記の検査項目を新規受託することとなりましたので、お知らせ致します。
何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

開 始 日 : 平成 23 年 10 月 24 日 (月) より開始

開 始 項 目 : 3404 免疫グロブリン遊離 L 鎖 κ/λ 比
(フリーライトチェーン)

依 頼 方 法	総合検査依頼書の追加項目欄に、「 免疫グロブリン遊離 L 鎖 κ/λ 比 」とご記入ください。
検 査 方 法	ネフェロメトリー
採 取 容 器 (採取量)	① 分離剤入り採血管 (血液 2.0 ml)
保 存 方 法	冷蔵保存
基 準 値	κ 型 3.3 ~ 19.4 (mg/L) λ 型 5.7 ~ 26.3 (mg/L) κ/λ 比 0.26 ~ 1.65
所 要 日 数	4 ~ 10 日
実 施 料 (判 断 料)	400 点 (「D014」自己抗体検査の「21」) (免疫学的検査 144 点)
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ●検査結果について(試薬メーカー資料より引用) ・ 本測定結果は、補助診断としてご利用ください。 ・ 診断・治療を決定する場合、また、臨床経過と測定値が一致しない場合は、病歴や他の検査所見も参考にして、総合的判断で行ってください。 ・ 遊離 L 鎖の増加のため、抗原過剰により、予想外に低い測定値を示しこともあります。 ・ 遊離 L 鎖の構造変化により、前回測定値と結果が大きく乖離する場合があります。

臨床的意義：

免疫グロブリンは、血液細胞のひとつである形質細胞から産生され、H鎖とL鎖から構成されています。形質細胞が腫瘍化すると、ある特定の免疫グロブリンが大量に産生されますが、多発性骨髄腫に代表される単クローン性マクログロブリン血症においては、免疫グロブリン遊離L鎖(フリーライトチェーン)が血中に多く産生されることが知られています。

また、通常は一定の値を示す κ 型と λ 型フリーライトチェーンの比は、疾患特異的に大きく変動し、フリーライトチェーンの産生を早期に反映するため、診断や経過観察に有用です。

既に海外では、新たな治療薬開発の進展に伴い、より厳密な寛解状態のモニターが必要とされ、その治療効果判定として κ/λ 比が評価基準とされています。

血清中の κ 型および λ 型のフリーライトチェーンを測定し、 κ/λ 比を算出します。単クローン性 γ グロブリン血症の診断や経過観察に有用です。